

教 育 研 究 業 績 書

2025年5月30日

氏名 長 澤 雅 春

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
日本語教育／日本近現代文学/地域研究(韓国)	日本語／国語／植民地／朝鮮文学/朝鮮教育／朝鮮総督府／日帝下の教科書／日本語文学/日本浪漫派	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1. 日本語スピーチコンテストのための日本語指導(在釜山日本領事館主催)	1995年7月 1996年7月	仁済大学日語日文学科担当科目「日本語会話Ⅱ」(2年生/通年/30名)において、在釜山日本領事館主催スピーチコンテスト出場のための予選会を行い、スピーチ内容のチェック、イントネーション、アクセント、暗記法の訓練を行った。ここまでのアンケートでは「日本語の上達にたいへん役に立った」という意見が多かった。1995年度選抜者は1位となり、1997年度選抜者は4位入賞となって日本留学を果たした。ちなみに1995年度に1位となった金徑希さんは、後に一般財団法人国際教育振興会・国際交流基金が主催する「第51回外国人による日本語弁論大会」(2010/新潟市)に出場して文部科学大臣賞奨励賞を受賞、第62回大会(2021年度/於:佐賀市)では総合司会を務めた。
2. 韓国人による日本語劇(90分間)の日本語指導	1995年11月 1996年11月 1997年11月	仁済大学日語日文学科「日本演劇」(4年生/後期/15名)授業の実践として、本格的な日本語劇を大学内講堂において上演した。長澤は日本語のイントネーション、アクセント、セリフ暗記、舞台位置などを指導した。役者、道具係、照明係などばすべて授業履修生で、上演作品はつかこうへい、別役実など。出演した学生のうち4名が卒業後は日本に留学し、現在日本と韓国において大学教員となっている。
3. 韓国人学生にたいする俳句と句会指導	1995年3月～ 1997年6月	仁済大学日語日文学科「日本文学」(3年生//後期/30名)で、日本の短詩形文学の特色を韓国人に効果的に教授するため、学内キャンパス吟行と句会を行った。挨拶を旨とする日本の伝統的短詩形(俳諧/俳句)を、教室外も利用することで、自然と親しむコミュニケーションツールとしての俳諧、そして自己を語る俳句は日本語を学ぶ若者たちに受け入れられやすいものであり、アンケートによれば「日本の短詩と韓国の短詩との違いを理解できた」という意見だった。
4. 学内認定資格としての「日本語教育士」の設置及び「海外日本語教育実習」の科目設置	2001年4月～ 2010年3月	「日本語文法」「日本語概説」「日本語の歴史」「異文化間コミュニケーション」といった既設科目に、「日本語教授法」「海外日本語教育実習」(2年生/集中/10名程度)所定の科目を取得することによって、短大生の日本語教育と海外教育実習への関心度を高めた。学内認定資格「日本語教育士」を設置して、とくに韓国の協定大学でおよそ1ヶ月の日本語教育実習を行うプログラムとした。毎年4-5名ほどのプログラム参加者がおり、韓国での教育実習は自己との闘いであるゆえ、途中挫折する学生、最後まで貫徹する学生とに分かれたが、アンケートによれば、いずれも「自分にとって意味ある実習だった」という意見だった。
5. リアクションノートの提出を利用したフィードバック	2014年4月～ 現在に至る	中村学園大学全学共通教養科目「国際文化論」(1-4年/前期/100名前後) 「受講ノート」というA4用紙に、①授業メモ、②気づきと感想、③質問事項、④本授業の理解度の項目を立ててこの用紙を毎時提出させ、次回授業の開始において返却する。「授業メモ」においては誤った理解についてはコメントし、重要な質問は次回にプロジェクターを用いて授業冒頭で回答する。受講生が多いため、紙媒体とプロジェクターを使用したフィードバックは有用である。

6. K-POPの翻訳を通じて習得する意識の実践	2017年9月～ 2019年1月	佐賀女子短期大学地域みらい学科「韓国文化研究」(1年生/後期/20名程度)において、K-POPの中では比較的聴き取りやすいバラード系歌謡曲を履修生が選択して日本語訳を試みる。直訳では意が通じないフレーズが多いため、それをどのような日本語文にすることが適切であるか。担当本人だけでなく履修生全員で考える。直訳日本語の不自然さと自然な日本語化への工夫が翻訳者の技術であることを学生たちは痛感する。本人の好きな歌を自らの日本語で翻訳するため、履修生たちの満足度は高いものとなった。
7. 日本の伝統的短詩(連歌・俳句・短歌)の作成の場を共有化する	2018年4月～ 現在に至る	佐賀女子短期大学地域みらい学科「日本の文化Ⅰ」(1年前期)では、連歌・俳句・短歌をたんに作成するだけではなく、連歌会・句会・短歌会を催して履修生間で点数を凌ぎ合い、また相互鑑賞・即興作成など日本の伝統的な座の文化を体験することになっている。日本語のリズムや音感、季語など条件下で作成する短詩は、散文に慣れ親しんでいる学生には新鮮である。毎授業に提出されるアンケートでは、「ふと気づくと俳句・短歌を作っている」という意見が目立ち、履修生たちの満足度は高いものと思われる。
8. ハングル入力を訓練するビジネス韓国語	2019年9月～ 2021年1月	佐賀女子短期大学地域みらい学科「ビジネス韓国語」(2年後期/20名)。韓国語学部学生たちに必要な修得技能としてハングル文書のキーボード入力技術がある。短大図書館に備える40台のノートパソコンすべてにハングルをインストールし、日本語入力キーボードを使用してハングル文書を概ねブラインドタッチ入力ができるように指導する。最初はハングルの入力キーボードの位置に困惑するものの、学生の関心が高いため慣れることによって入力はスムーズになってくる。韓国のひな型にそったビジネス文書、ビジネスメール、手紙文などの書式を同時に修得することができ、学生の満足度は高いものとなった。
9. リアクションシートの実施によるフィードバック授業	2020年4月～ 現在に至る	佐賀女子短期大学地域みらい学科「韓国の歴史と文化」(1年/前期/30名)において、授業開始時に「本時授業の自己理解度」のチェック項目と「本時の質問」を取り入れたA4用紙1枚を毎時配布し、授業終了時にこれを提出させる。他履修生への効果的影響があるものと思われるもの6件ほどについては、次の授業冒頭でプロジェクターに映写して喚起する。同じ講義を聞きつつも他者の秀でたリアクションシートを知ることのできる効果を得ることができ、次回からは紹介したリアクションシートのレベルに近づこうとする意欲を多くの履修生のリアクションシートから感じ取ることができた。
10. (体験学習)佐賀と朝鮮半島との歴史を知るための体験型研修の実施	2024年5月26日 (於:佐賀県立名護屋城博物館、加唐島)	佐賀女子短期大学地域みらい学科「韓国の歴史と社会Ⅰ」(1年/前期)の中において、講義内容を実体験するため、文禄・慶長の役での日本出立の地となった唐津市鎮西町の佐賀県立名護屋城博物館で、古代から近代までの朝鮮半島との交流史を学び、百濟第25代王の武寧王生誕地である離島の加唐島へ渡って生誕の場を確認する。観光バスを使った1日10時間の学外体験授業であるが、アンケート結果では全員が「参加してよかった」「佐賀と韓国の歴史を身近に知った」という意見でたいへん満足度の高いものとなった。
2 作成した教科書・教材		

1. (教科書) 김미경, 전성엽, 이진후, 임헌참, <u>長沢雅春</u> 『MY JAPANESE』 (イルポノバンク刊(ソウル), 総234頁)	1999. 2. 27 共著	(韓国)仁済大学日語日文学科構成教員で作成してきた中級用「日本語会話」「日本語文法」「日本事情」教材を中心にまとめ汎用的な日本語テキストとして全国刊行した。長澤はネイティブ日本人としてテキスト全般にわたる日本語会話文の作成と日本事情作成、テキスト内の日本語文と内容、文法事項チェック、スキット作成を行った。
2. (教科書) 김미경, 전성엽, 이진후, 임헌참, 国実久美子, <u>長沢雅春</u> 『생활일번어365/生活日本語』 (J&C刊(ソウル), 総145頁)	2002. 2. 25 共著	上記教材が好評だったため、仁済大学日語日文学科でも使用する、旧テキスト『MY JAPANESE』の大幅な改訂テキストとして日語日文学科構成教員たちと作成し、全国刊行した。長澤はネイティブ日本人としてテキスト全般にわたる日本語文、内容チェックを行った。学習者の発音学習のためにカセットテープ2巻を付属した。 教材内容は、日本の四季を通じた日本人の若者や家族の生活を再現したものとなっている。
3. (教科書) 김미경, 전성엽, 이진후, 임헌참, 国実久美子, <u>長沢雅春</u> 『속생활일번어365/続生活日本語』 (J&C刊(ソウル), 総143頁)	2002. 8. 31 共著	仁済大学日語日文学科においても使用する、上記『生活日本語』の続巻として、同所属員と長澤の後任として赴任した日本人とともに作成・刊行した。長澤はテキスト全般にわたる日本語文、内容チェックを行った。学習者の発音学習のために前巻同様カセットテープ2巻を付属し、2巻を同年刊行した。 教材内容は、日本の四季を通じた日本人の若者や家族の生活を再現したものとなっている。
4. (教科書) <u>長澤雅春</u> 、張ユニャン 『話してみようマレバヨ 韓国語初級』 (佐賀女子短期大学現代韓国文化研究センター編著、白帝社刊、総185頁)	2020. 3 共著	文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受け、佐賀女子短期大学で韓国語を学ぶ日本人及び留学生を対象とする初級韓国語テキスト。外国人留学生の日本語学習としても利用できるようにするために漢字は総ルビを施した。また、各コースの現場実習場面を会話場面として「介護福祉士」「栄養士」「保育園」でのリアルな現場会話を韓国語会話として取り入れた。 全学共通科目としての「韓国語」科目において初学者を対象とする教材として使用している。韓国語及び日本語を学びたい留学生履修者も少なくないところから、総ルビの本教材は留学生にとって有益になっている。
5. (教材) 「韓国文化研究」(1年前期15回分/PPT作成)	2020. 4～ 2022. 8	日韓の関係においては二国間の歴史を知ることも必要であるため、本学学生用として、現代韓国文化の様々な事例を紹介しつつ、それがどのような歴史性に基いているのかを、担当者の体験と事例をもって現代韓国の多様な文化面から考察する教材を作成した。また、これを学生の復習用としてPDF化してオンラインにのせてダウンロードできるようにしてある。使用した画像の多くは担当者が韓国滞在中に撮影したものをデジタル化したものである。
6. (教材) 「韓国の歴史と社会」(1年後期15回分/PPT作成)	2020. 9～ 2023. 2	韓国史を、『三国史記』『三国遺事』の事項を取り入れながら、各王朝の始祖説話を紹介し、対日本との関係を踏まえて東アジアの視点から韓国の歴史を考えることができる、画像を多数用いた教材を作成した。韓国語文化コース入学者の韓国史への関心は、韓流ドラマの影響から高いため、学生にとってドラマの背景が理解しやすい工夫として教材にドラマの部分を視聴するようにした。また、これを学生の復習として用いられるようにオンラインにのせてダウンロードできるようにしてある。

7. (教材)「韓国の歴史と社会Ⅰ」(1年前期15回分/PPT作成)、「韓国の歴史と社会Ⅱ」(1年後期15回分/PPT作成)	2024. 4～ 現在に至る	2024年度より、これまでの「韓国の歴史と文化」をⅠ(前期15回)とⅡ(後期15回)として韓国史を近現代史までを展開する通史科目とした。それに伴って「Ⅰ」では古朝鮮時代の始祖説話から高麗王朝までの歴史を取り扱うこととし、中国日本との関係史を併せて地図や関連画像を多く取り入れて韓国史の前半史とし、以降近現代史までを「Ⅱ」とした。これをPDF化して授業前までにオンラインにのせ、授業では学生が持ち込むノートパソコンから見られるようにしてある。また、復習ができるよう、ダウンロードできるようにしてある。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
1. 学生による授業評価	2013年度	全学共通科目である「韓国語」(1年生/通年/40名)についての学生評価は4. 5p(平均3. 9p)であった。「授業の内容に関心を持ち、熱心に取り組んでいる」という学生自身の評価は4. 6pで、「学生自身に考えさせる工夫がなされている」の評価は4. 5pとなり、概ね授業評価は高いものとなっている。
2. 学生による授業評価	2014年度	佐賀女子短期大学キャリアデザイン学科科目「さまざまな日本語表現Ⅰ」(1年/前期/10名)についての学生評価は4. 9p(平均4. 2p)であった。「授業の内容に関心を持ち、熱心に取り組んでいる」という学生自身の評価は5. 0pで、「話し方や説明の仕方がわかりやすい」「学生の理解を確認しながら授業を進めている」「学生自身に考えさせる工夫がなされている」など13項目の評価が5. 0pとなり、授業評価は高いものとなった。
3. 大学による教員評価(教育領域、学術・研究領域、社会貢献領域、組織運営領域)	2016年度	佐賀女子短期大学2016年度教員評価において、教育領域(266. 9p)、学術・研究領域(100. 0p)、社会貢献領域(195. 0p)、組織運営領域(396. 0p)となり、計956. 9pの高い評価となった。
4. 大学による教員評価(教育領域、学術・研究領域、社会貢献領域、組織運営領域)	2017年度	佐賀女子短期大学2017年度教員評価において、教育領域(287. 5p)、学術・研究領域(172. 0p)、社会貢献領域(144. 0p)、組織運営領域(293. 0p)となり、計896. 5pの高い評価となった。
5. (競争的助成金の申請)文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」申請のための教授会決定を採択 事業内容「短期大学におけるダブルディグリープログラムを推進する韓日語併記学習教材の開発と韓国文化研究拠点の構築」(申請事業期間:5年間/申請助成金額:1億5000万円)	2017年6月21日	文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」は、大学に所属する教員の個人研究もしくは共同研究を大学の研究ブランドとする課題にたいして大型の助成を行うものである。申請に先立って課題を教授会決定するものであるが、長澤が長年取り組んできた科研費による朝鮮教育・国語教育研究を基盤とした内容の申請とすることが決定され、同年11月に採択が決定された。
6. 教員相互による授業改善のための取り組みと評価	2020年10月14日	佐賀女子短期大学の他学科・他コースの教員と相互に授業改善を目的とした取り組みを例年行なっている。2020年度はこども未来学科准教授と地域みらい学科講師とのチームでこれに取り組んだ。対象科目は「日本語の歴史」(グローバル共生コース2年/後期/15名)で、「年表やテキスト等を活用し、萬葉集・いろは歌など生徒が知っている教材をもとに興味関心を引き出す組み立てがされている。特に音韻の変遷については興味深かった。」という意見があり、一方で「学生が教員の説明を聞くスタイルに終始しているため、問いを持たせる、話し合わせ、生徒に発表させるなど、アクティブラーニングの視点から授業を作る必要もあるのでは」という改善点の指摘があった。

7. 学生による授業評価アンケート	2024年5月26日	佐賀女子短期大学「韓国の歴史と社会I」（1年前期）における学外研修として佐賀県と朝鮮の交流史を学ぶ体験型授業を佐賀県立名護屋城博物館及び加唐島にて行った。参加者28名による6項目の学生アンケート結果によれば、満足度は5p中4.8pとなり、「新しい知識を得ることができた」「また参加したい」などほぼ全員が満足できるものであった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 なし		
5 その他		
1. (海外協定) 慶州大学との間で基本協定書を作成、協定締結をコーディネート	1998年12月	韓国の協定大学としては初めてとなる慶州大学(4年制)との間で交流協定を締結した。これによって、韓国での夏季研修派遣及び20名規模の受入れ日本語研修が可能になった。これによって、毎年慶州大学卒業生の本学へ入学するようになった。
2. (セミナー報告)「学科改編に伴う教養としての外国語教育について－韓国語を中心として」	2001年10月6日 (於:佐賀大学)	第50回九州地区大学一般教育研究協議会において、本学の韓国語教育の現状について、今後の取り組みの見直しとともに報告した。
3. (別科の設置) 文化コミュニケーション学科に日本語別科(20名)設置するための発案企画、諸手続きを行い設置	2002年4月1日	海外からの留学生を受け入れる仕組みとして、日本語別科を設置し、県内に住む外国人及び海外留学生の受け入れを本格化させることとした。日本語別科の設置にともない、韓国、ベトナム、中国、台湾、マレーシアから受け入れることとなった。また、別科修了者が本科へ入学するようになった。
4. (海外受入) 協定大学(慶州大学)より受け入れ留学生のための、有償による長期インターンシップの受け入れを推進	2002年9月～ 2004年2月	協定大学の慶州大学から派遣される留学生を、派遣元大学の科目「長期海外インターンシップ」生として実践できるよう、有償による受入れ企業を開拓し、インターン生本人・受入企業・派遣元大学・佐賀女子短期大学との間で有償長期インターンシップ協定を締結した。締結企業は①和田屋別荘(嬉野温泉)、②神泉閣(嬉野温泉)。有償については留学ビザにかかわるため、佐賀入管と相談しながらこれをおこなった。毎年4名～6名が参加。
5. (海外受入) 協定大学(慶州大学)より受け入れ留学生のための、有償による長期インターンシップの受け入れを推進	2005年9月～ 2008年2月	協定大学の慶州大学から派遣される留学生を、派遣元大学の科目「長期海外インターンシップ」生として実践できるよう、受入れ企業を開拓し、インターン生本人・受入企業・派遣元大学・佐賀女子短期大学との間で有償長期インターンシップ協定を締結した。締結企業は①ホテルニューオータニ佐賀、②吉野ヶ里歴史公園、③グランドホテルはがくれ、の3社。有償については留学ビザにかかわるため、佐賀入管と相談しながらこれをおこなった。毎年6名程度が参加。
6. (審査委員)「第7回佐賀県韓国語スピーチコンテスト」審査員(日中学院主催)	2008年2月24日 於:アイスクエアビル5F	会場:アイスクエアビル 5F佐賀市内にある日中学院が主催する韓国語スピーチコンテストで、出場者は佐賀県内者の一般人が中心である。
7. (海外協定) 蔚山科学大学との間で基本協定書、交換留学制度の協定書を作成、締結をコーディネート	2010年3月	韓国語を学びたい学生の韓国での実践教育のため、蔚山科学大学との間で双方の学生を交換留学生として受け入れることを締結した。
8. (海外受入) 協定大学留学生(蔚山科学大学)より受け入れ留学生のための、有償による長期インターンシップの受け入れを推進	2011年9月～ 2013年2月	協定大学の蔚山科学大学から派遣される留学生を、派遣元大学の科目「長期海外インターンシップ」生として実践できるよう、有償による受入れ企業を開拓し、インターン生本人・受入企業・派遣元大学・佐賀女子短期大学との間で有償長期インターンシップ協定を締結した。締結企業は①ホテルニューオータニ佐賀、②吉野ヶ里歴史公園、③グランドホテルはがくれ、の3社。有償については留学ビザにかかわるため、佐賀入管と相談しながらこれをおこなった。毎年6名程度が参加。

9. (審査委員)「第6回韓国語スピーチコンテストinなごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2011年10月6日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
10. (審査委員)「第8回佐賀県韓国語スピーチコンテスト」審査員(日中学院主催)	2012年3月6日 於:アイスクエアビル5F	佐賀市内にある日中学院が主催する韓国語スピーチコンテストで、出場者は佐賀県内者の一般人が中心である。
11. (審査委員)「第7回韓国語スピーチコンテストinなごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2012年10月20日 佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
12. (公開講座)「佐賀の炭鉱跡地(多久市)と近代建築―閉山から40年」	2012年11月28日 生涯学習センター (於:多久市)	日本近代のエネルギー政策を支えた多久市内の三菱古賀山炭鉱と明治佐賀炭鉱の跡地や、炭鉱に関連する箇所を探訪。採掘された石炭を運送するために敷設された九州鉄道唐津線に沿って唐津港まで出て、石炭の売買と石炭の輸送を担った三菱合資会社唐津支店本館、旧唐津銀行本店、厳木駅、山本駅を訪ねる。
13. (海外協定)蔚山科学大学との間でダブルディグリー制度の協定を企画・策案、協定書の作成、締結をコーディネート	2012年12月18日	韓国文化・韓国語を学び、韓国へ留学しようとする学生にとって有益となるよう、蔚山科学大学との間で2年次に1年間留学し、所定の単位数を取得することで、両大学を卒業することができる両大学合意の協定書を作成し、平成25年度より相互派遣することとした。
14. (海外派遣)蔚山科学大学韓国文化研修(派遣)引率	2013年8月18日～2013年8月23日 (於:蔚山科学大学)	協定に従い、夏季韓国文化研修へ参加する研修団を引率し、総長をはじめとして各部署への挨拶とお礼を行った。
15. (公開講座)長澤雅春「元寇襲来の地と『にあんちゃんの里』(旧杵島炭鉱大鶴鉱業所)めぐり-朝鮮と肥前の歴史的風景」	2013年10月16日 生涯学習センター (於:肥前町)	旧杵島炭鉱大鶴鉱業所跡地その他を探訪。佐賀県肥前町の旧杵島炭鉱大鶴鉱業所は、『にあんちゃん』の舞台として全国的に知られるが、ここは作者家族も含めて朝鮮からの労働者からも少なくなく、隣接する光明寺にはこの地域で亡くなった51人の慰霊碑を昭和33年(1958年)建立し、無縁仏として葬られた人たちの慰霊供養を現在でも続けている。
16. (海外派遣)蔚山科学大学へのミュージカル部派遣をコーディネート	2013年9月30日～2013年10月3日 (於:蔚山科学大学)	本学保育コースの教育的魅力を付加するため、蔚山科学大学幼児教育学科と連携して、蔚山市内の幼稚園2か所と蔚山科学大学講堂において共同公演を行った。
17. (審査委員)「第8回韓国語スピーチコンテストinなごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2013年10月26日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
18. (海外受入)蔚山科学大学からの日本文化研修団の受け入れ	2013年11月27日～ 2013年12月1日	蔚山科学大学からの日本文化研修団の受け入れを企画、コーディネートしてこれを行った。
19. (海外派遣)蔚山科学大学韓国文化研修(派遣)引率	2014年8月17日～2014年8月23日 (於:蔚山科学大学)	協定に従い、夏季韓国文化研修へ参加する研修団を引率し、総長をはじめとして各部署への挨拶とお礼を行った。研修期間は8/10～8/30までの期間で、参加学生数は22名。
20. (海外講演)「PIN Conference Korea 2014」にて講演	2014年10月5日～2014年10月8日 (於:韓国ソウル市)	PIN Conferencとは、世界の職業大学集まる国際会議で、2014年は東アジアでは初めて韓国ソウル市で開催された。主幹大学は蔚山科学大学で、世界32の職業大学の学長が集まりスピーチとプレゼンテーションを行うが、日本からの招待短大は本学のみである。長澤は本学の国際交流理念と現状報告、及び南通職業技術学院の紹介を行った。

21. (審査委員)「第9回韓国語スピーチコンテストin なごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2014年10月25日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生部・一般部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
22. (公開講座)長沢雅春「佐賀県の炭鉱跡地と廃墟―唐津炭田 向山炭鉱跡地等めぐり」	2014年10月29日 生涯学習センター (於:伊万里市)	JR山本駅～伊万里駅を結ぶ筑肥線は元来炭鉱から産出した石炭を港まで運搬する役割を果たしてきた。伊万里湾には福島炭鉱や向山炭鉱(川南工業株式会社)などがあり、佐賀県は近代における日本のエネルギー政策を支えてきたといっている(明治14年は産出量日本一となった)。そうした佐賀県の近代を炭鉱跡地と関連施設をめぐらる。
23. (海外協定)翰林聖心大学との間で、交換留学・ダブルディグリー協定書を作成、締結をコーディネート	2015年4月21日 (於:韓国春川市)	韓国留学を希望する学生の留学先選択肢を増やすため、翰林聖心大学との間で基本協定書・交換留学協定書・ダブルディグリー協定書を作成し、両大学合意の締結を行い、平成28年度から4名程度を相互派遣することとした。
24. (海外協定)江西外語外貿職業学院との大学間協定及び交換留学についての細部協定書締結	2015年5月28日～2015年6月2日 (於:中国南京市/南通市)	中国江西省南昌市に位置する江西外語外貿職業学院において、大学間協定及び交換留学についての細部協定書の締結を行い、今後の派遣と受け入れ計画について協議した。また、協定大学である中国江蘇省南通市に位置する南通職業技術学院において、本学からの交換留学生在が在籍しているため、今後の受け入れと派遣について協議した。
25. (海外受入)協定大学(翰林聖心大学)留学生の、有償による長期インターンシップの受け入れを推進	2015年9月～2015年2月	協定大学の翰林聖心大学から派遣される留学生を、派遣元大学の科目「長期海外インターンシップ」生として実践できるよう、有償による受入れ企業を開拓し、インターン生本人・受入企業・派遣元大学・佐賀女子短期大学との間で有償長期インターンシップ協定を締結した。締結企業は①ホテルニューオータニ佐賀、②グランドホテルはがくれ、の2社。有償については留学ビザにかかわるため、佐賀入管と相談しながらこれをおこなった。毎年4名が参加。
26. (審査委員)「第10回韓国語スピーチコンテストin なごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2015年10月22日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生部・一般部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
27. (公開講座)長沢雅春「併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『家なき天使』1941年作品)	2015年11月7日 生涯学習センター	韓国映像資料院より提供された植民地化の朝鮮映画を復刻したDVD『発掘された過去』(2007)シリーズより『家なき天使』(高麗映画協会1941年製作)を上映、解説した。鑑賞前に解説を行い、鑑賞後は質疑応答を行った。
28. (指導)「話してみよう 韓国語スピーチコンテスト」西日本地域大会福岡大会(駐大阪韓国文化院)出場のための指導と引率	2015年12月12日 (於:福岡マリメッセ)	キャリアデザイン学科韓国語系6名が本選に出場するため、韓国語指導と引率を行った。残念ながら入賞することはできなかった。
29. (指導)「韓国文化研究Ⅰ」履修生のK-Popカバーダンスコンテスト九州大会本選出場指導と引率	2016年6月18日 (於:北九州市芸術劇場)	大阪韓国文化院が主催する「K-Popカバーダンスコンテスト九州大会」に出場するため、担当科目「韓国文化研究Ⅰ」の履修生6名による九州大会本選出場を目指して指導し、本選出場となった。
30. (審査委員)「第11回韓国語スピーチコンテストin なごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2016年10月21日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生部・一般部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。

31. (公開講座)長澤雅春「1930～40年代、併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『授業料』1940年作品)	2016年11月3日 生涯学習センター	韓国映像資料院より提供された植民地化の朝鮮映画を復刻したDVD『発掘された過去』(2007)シリーズより『授業料』(高麗映画協会製作/昭和15年)を上映、解説した。今回の『授業料』の上映は、京都大学、スタンフォード大学に次ぐ上映となった。鑑賞前に解説を行い、鑑賞後は質疑応答を行った。
32. (産学連携協定)株式会社ティーウェイ航空福岡支店との産学連携協定を企画、協定書の作成、及び締結のためのコーディネイト	2016年11月15日	佐賀女子短期大学の韓国語教育ブランド力を高めるため、株式会社ティーウェイ航空福岡支店長との合意を受けて産学連携協定を締結した。当該航空会社が教育機関と連携協定を締結するのは本学が日韓を含めて初めてのことであった。これにより、福岡空港国際線及び佐賀空港においてエアライン研修を行うことができ、本学の韓国語教育ブランドを九州及び韓国内で高めることができた。
33. (海外協定)忠北保健科学大学との学術交流基本協定書及び交換留学協定の締結	2017年5月17日～2017年5月18日 (於:忠北保健科学大学)	忠北保健科学大学からの申し出により、学術交流基本協定書及び交換留学協定を締結することとなった。
34. (海外派遣)蔚山科学大学への韓国文化研修(派遣)の引率	2017年8月13日～2018年8月18日 (於:蔚山科学大学)	協定に従い、夏季韓国文化研修へ参加する研修団を引率し、総長をはじめとして各部署への挨拶とお礼を行った。研修期間は8/6～9/2まで。4週間/12名、2週間/4名、1週間11名の各コースで参加学生数は27名。
35. (助成金採択)上記文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」に申請し、採択された。	2017年10月	短期大学唯一のダブルディグリープログラム実施校としての質を保証するため、現代韓国文化研究センターを設置し(規程を整備)て韓国文化研究、韓国語教育及び韓国留学をさらに推進させこととした。また、今日的な地域の課題に対応できる専門職業人を育成する佐賀女子短大という特色を打ち出すこととした。
36. (審査委員)「第12回韓国語スピーチコンテストin なごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2017年10月21日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査員を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
37. (公開講座)長澤雅春「併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『漁火』1939年作品)	2017年11月4日 生涯学習センター	韓国映像資料院より提供された植民地化の朝鮮映画を復刻したDVD『発掘された過去』(2007)シリーズより『漁火』(1939)を上映。鑑賞前に作品の背景説明を行い、鑑賞後は作品の解説及び質疑応答を行った。
38. (ブランディング事業)第1回楽しい韓国語ー中高生のための韓国語スピーチコンテスト開催	2018年5月27日 現代韓国文化研究センター (於:佐賀女子高校さつきホール)	文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受けて、中高生を対象とした韓国語普及のためのスピーチコンテストを開催した。スキット部門とスピーチ部門をそれぞれが競い、佐賀県内、福岡県、長崎県からの参加者があった。
39. (公開講座)長澤雅春「併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『志願兵』1941年作品)	2018年6月9日 生涯学習センター/現代韓国文化研究センター	韓国映像資料院より提供された植民地化の朝鮮映画を復刻した『発掘された過去』(2007)シリーズより『志願兵』(1941)を上映。鑑賞前に作品の背景説明を行い、鑑賞後は作品の解説及び質疑応答を行った。
40. (海外派遣)蔚山科学大学韓国文化研修(派遣)引率	2018年8月9日～2018年9月14日 (於:蔚山科学大学)	協定に従い、夏季韓国文化研修へ参加する研修団を引率し、総長をはじめとして各部署への挨拶とお礼を行った。研修期間は8/6～9/2まで。4週間/13名、1週間/8名の各コースで参加学生数は計21名。

41. (ブランディング事業) 本学の国際交流・留学制度についての事例報告として、「地方短期大学のダブルディグリー・プログラムー佐賀女子短期大学の単国留学の在り方」を日本学生支援機構(Jasso)HP掲載へ執筆	2018年10月 単著 日本学生支援機構『留学交流』掲載	日本学生支援機構(Jasso)からの依頼による論考。「本学は全国でも非常に珍しい韓国大学との国際交流を行っているため、これを事例報告してほしい(1万字程度)」との依頼によって執筆した。佐賀女子短期大学の韓国の大学との協定にいたる経過と内容、ダブルディグリー協定にいたる経過と内容、学生間交流の成果等、本学の国際交流にこめた理念等を表している。掲載はJassoのホームページにある「ウェブマガジン『留学交流』」のvol. 91(2018. 10月号)にリンクされている。(11,991字)
42. (公開講座)長澤雅春「1930～40年代、併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『軍用列車』1938年作品)	2018年10月13日 生涯学習センター/ 現代韓国文化研究センター	韓国映像資料院より提供された植民地化の朝鮮映画を復刻したDVD『発掘された過去』(2007)シリーズより、『軍用列車』(1938)を上映、解説した。鑑賞前に作品の背景説明を行い、鑑賞後は作品の解説及び質疑応答を行った。
43. (審査委員)「第13回韓国語スピーチコンテストin なごや」審査員(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2018年10月20日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて今年度より審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
44. (指導)「第10回話してみよう 韓国語スピーチコンテスト」西日本地域大会福岡大会(駐大阪韓国文化院)出場のための指導と引率	2018年12月8日 於:JR博多シティビル9F	グローバル共生コース韓国語分野学生4名が本選に出場するため、韓国語指導と引率を行い、スキット部門(各組2名)で1位と3位入賞を果たした。
45. (ブランディング事業)日韓合同産学連携シンポジウムを主催 テーマ: 地域共生社会実現に向けた地方の短期大学教育の在り方-지역공생사회실현을 위한 지방대학의 역할	2018年12月12日 (於:佐賀女子短期大学)	佐賀女子短期大学現代韓国文化研究センターが主催し、蔚山科学大学創業教育センター共催によるシンポジウム及び学生グループによる開発商品の発表で、本学学生と韓国協定大学学生との合同チームによる発表会を行なった。
46. (海外学会の主催開催)国際語文学会海外大会を主催 大会テーマ「東アジア知識場の力学」	2018年1月27日 (於:佐賀女子短期大学)	長澤の所属する(韓国)国際語文学会初めての海外大会として本学が会場校となってい、日韓の研究者による関連な研究発表がなされた。長澤は主催代表者として大会の総合司会及び進行を行った。
47. (海外協定)馬山大学との間で、基本協定書、ダブルディグリー協定の協定書を作成、締結をコーディネート	2019年4月24日 (於:馬山大学)	韓国語を学んで韓国へ留学を目指す学生の留学先選択肢を増やすため、馬山大学との間で、基本協定書・ダブルディグリー協定書を作成し、両大学合意の締結を行った。この年の夏季語学研修には10名を派遣し、令和2年度からダブルディグリー生を相互派遣した。
48. (ブランディング事業)第2回楽しい韓国語ー中高生のための韓国語スピーチコンテスト開催	2019年5月13日 (於:佐賀女子高校さつきホール)	現代韓国文化研究センター主催。文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受けて、中高生を対象とした韓国語普及のためのスピーチコンテストを開催した。スキット部門とスピーチ部門でそれぞれが競った。佐賀県以外からは福岡県、長崎県、広島県の参加者があった。
49. (海外協定)東義科学大学との間で、学術協定の協定書を作成、締結をコーディネート	2019年6月	夏季韓国語研修への参加を希望する学生の派遣先選択肢を増やすために東義科学大学(釜山)との間で学術協定の締結を行い、この年の夏季韓国語研修で23名を派遣した。
50. (公開講座)長澤雅春「韓国ソウルの近代建築・近代史探訪ー辰野金吾の遺産建築を求めて」	2019年9月18日～ 2019年9月21日 生涯学習センター/ 現代韓国文化研究センター	旧京城駅(辰野金吾)・旧朝鮮銀行本店(辰野金吾)・独立門・西大門刑務所・旧朝鮮神社跡(現安重根記念館)、水原国立民俗村、など韓国の近代建築を中心に史跡を巡った。参加者18名

51. (ブランディング事業)第1回「現代韓国映画祭in SAGA」の開催	2019年9月29日 (於:シアター・シエマ)	現代韓国文化研究センター主催として、大阪韓国文化院共催。文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受けて、韓国文化普及のための「現代韓国映画祭」を開催した。上映作品は『チャンス商会』『辺山』の2作品。入場無料。
52. (審査委員)「第14回韓国語スピーチコンテスト in なごや」審査委員長(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2019年10月26日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
53. (公開講座)長澤雅春「1930～40年代、併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『兵隊さん』1944年作品)	2019年11月9日 生涯学習センター/ 現代韓国文化研究センター	韓国映像資料院より提供された植民地化の朝鮮映画を復刻したDVD『発掘された過去』(2007)シリーズより『兵隊さん』(1944)を上映、解説した。鑑賞前に作品の背景説明を行い、鑑賞後は作品の解説及び質疑応答を行った。
54. (シンポジウム報告)長澤雅春「佐賀女子短期大学現代韓国文化研究センターの現状について」	2020年1月24日 (於:九州大学)	九州大学韓国研究センター設立20周年記念シンポジウムにおいて、本学の現代韓国分化研究センターの現状と運営等について報告した。
55. (審査委員)「第15回韓国語スピーチコンテスト in なごや」審査委員長(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2020年10月26日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
56. (公開講座)長澤雅春「併合下の朝鮮映画の鑑賞と解説」(『家なき天使』1941年作品)	2020年11月7日 生涯学習センター/ 現代韓国文化研究センター	2015年に本講座で扱った『家なき天使』(高麗映画協会1941年製作)が好評だったため、5年ぶりに再映することとした。鑑賞後は作品の歴史的位置づけ、及び質疑応答を行った。
57. (海外協定)東義大学東アジア研究所との間で学術協定を締結	2021年3月6日	本学の現代韓国文化研究センターと東義大学東アジア研究所との間で、学術研究・共同研究及び研究者交流のための協定書を締結した。
58. (ブランディング事業)「第2回現代韓国映画祭in SAGA」の開催	2021年8月8日 (於:佐賀県立アバンセ、ホール)	現代韓国文化研究センター主催として、九州大学韓国研究センター共催。韓国文化普及のための「第2回現代韓国映画祭」を開催した。上映作品は『焼肉ドラゴン』『国際市場で逢いましょう』の2作品。入場無料。
59. (審査委員)「第16回韓国語スピーチコンテスト in なごや」審査委員長(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2021年10月23日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
60. (公開講座)長澤雅春「林権澤監督作品鑑賞『族譜』」(1978年作品、梶山李之原作「族譜」)	2021年11月4日 ソナー/現代韓国文化研究センター	韓国映像資料院が刊行する『林権澤監督作品集』より、併合下の創氏改名を題材にした梶原李之原作の短篇小説「族譜」を映画化した作品の鑑賞・解説を行った。鑑賞前に解説を行い、鑑賞後は質疑応答を行った。
61. (ブランディング事業)第12回「話してみよう韓国語 福岡大会」を駐大阪韓国領事館韓国文化院と共催	2021年12月4日 (於:福岡国際会議場5F)	「第12回話してみよう韓国語 福岡大会」を駐大阪韓国領事館韓国文化院からの申し出によって共催、本学からは韓国語文化コース学生3名と教員2名が当日の会場運営に協力した。スキット部門(16組32名)、スピーチ部門(11名)が出場した中で、本学の韓国語文化コースからの出場者が優秀賞を受賞した。
62. (審査委員)「第17回韓国語スピーチコンテスト in なごや」審査委員長(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2022年10月22日 於:佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。

63. (公開講座)長澤雅春「林権澤監督作品鑑賞『曼茶羅』」(1981年作品)	2022年11月4日 生涯学習センター/ 現代韓国文化 研究センター	韓国映像資料院が刊行する『林権澤監督作品集』より、第20回大鐘賞映画祭(1981)において優秀作品賞、監督賞、脚色賞等数々の受賞に輝いた「曼茶羅」を上映、鑑賞した。鑑賞前に解説を行い、鑑賞後は質疑応答を行った。
64. (ブランディング事業)第3回「現代韓国映画祭in SAGA」の開催	2022年11月6日 (於:佐賀県立 アバンセ、 ホール)	現代韓国文化研究センター主催、佐賀県教育委員会後援。韓国文化普及のための「第3回現代韓国映画祭」を開催した。上映作品は『エイジアン・ブルー』『サニー』の2作品。入場無料。
65. (講座)武雄市生涯学習課韓国語講座(3回)	2023年9月7日 ～ 2023年9月21日 於:武雄市文化 会館	武雄市生涯学習課からの依頼により、「韓国語講座」を毎木曜日計3回を行った。長澤の担当部分は初級韓国語レベルの文法と会話で、中級は韓国語文化コースのネイティブ教員が担当した。
66. (公開講座)長澤雅春「林権澤監督作品鑑賞『チャッコ』」(1980年作品)	2023年11月4日 生涯学習センター/ 現代韓国文化 研究センター	韓国映像資料院が刊行する『林権澤監督作品集』より、第19回大鐘賞映画祭(1980)において脚色賞を受賞した「チャッコ」を上映、鑑賞した。鑑賞前に作品の解説を行い、鑑賞後は質疑応答を行った。
67. (審査委員)「第18回韓国語スピーチコンテスト in なごや」審査委員長(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2023年10月22 日 於:佐賀県立名 護屋城博物館	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
68. 第3回楽しい韓国語ー中高生のための韓国語スピーチコンテスト開催	2024年3月10日 (於:佐賀女子 高校さつき ホール)	現代韓国文化研究センター主催。新型コロナ感染のために中断していたが、現代韓国文化研究センター主催で、中高生を対象とした韓国語普及のためのスピーチコンテスト3回目を開催した。

69. (ブランディング事業)「武雄アジア映画祭」の開催	2024年3月20日 (於:武雄市文化会館小ホール)	現代韓国文化研究センター主催、武雄市後援。新大学設置を目指す武雄市で開催した。上映作品は『心の傷を癒やすということ』『怪しい彼女』(韓国)の2作品。『心の傷を癒やすということ』は、能登半島沖地震支援金の募金映画とした。入場無料。
70. (審査委員)「第19回韓国語スピーチコンテスト in なごや」審査委員長(佐賀県立名護屋城博物館主催)	2024年12月8日 於:佐賀県立名護屋城博物	佐賀県立名護屋城博物館内のホールで開催される韓国語コンテストにおいて審査委員長を行った。当該コンテストにはスキット部門(高校生の部・一般の部)、スピーチ部門とあり、佐賀県内外から多くの参加者がある。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 1. 経済学士 2. 社会科教員普通免許中学1級 3. 社会科教員普通免許高校2級 4. 文学士 5. 国語科教員普通免許中学1級 6. 国語科教員普通免許高校2級 7. 文学修士 8. 国語科教員免許高校1級 9. 博士課程後期課程単位取得満期退学 10. 俳句新人賞受賞 11. 入管手続き申請取次者資格取得	1981年3月 1981年3月 1981年3月 1983年3月 1983年3月 1983年3月 1987年3月 1987年3月 1990年3月 1995年1月 2002年1月	神奈川大学経済学部経済学科 第4479号(神奈川県教育委員会) 第3525号(神奈川県教育委員会) 中央大学文学部文学科国文学専攻 第12949号(東京都教育委員会) 第13659号(東京都教育委員会) 中央大学大学院文学研究科博士前期課程 第995号(東京都教育委員会) 中央大学大学院文学研究科博士後期課程 大牧宏主宰俳句結社「港」 福岡入国管理局(3年間)、2005年更新(～2008年9月14日まで有効)
12. 感謝状及び記念銀皿(再掲)	2006年9月	慶州大学と佐賀女子短期大学との活発な交流及び日韓交流への貢献にたいして(慶州大学校総長 金一潤)
13. 感謝状及び記念盾(再掲)	2013年3月	日韓間における国際交流・国際貢献にたいしてライオンズクラブ国際協会武雄ライオンズクラブ会長 八坂信雄
2 特許等 なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 なし		
4 その他 1. 日本学術振興会科学研究費 <u>研究代表者</u> 「朝鮮総督府における「国語」政策」 萌芽的研究/3年間 交付決定額:190万円 課題番号:12871051 2. 日本学術振興会科学研究費 <u>研究代表者</u> 「朝鮮総督府における「国語」政策の基礎的研究－朝鮮総督府編纂発行教科書とその背景」 基盤研究(C)/4年間 交付決定額:310万円 課題番号:16520123 3. 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 4. 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員	2000年度 ～ 2002年度 2004年度 ～ 2007年度 2008年1月1日 ～ 2008年12月31日 日 2009年1月1日 ～ 2009年12月31日 日	長澤の韓国滞在中における朝鮮総督府編纂発行教科書研究を基礎研究として、併合下朝鮮の国語政策を明らかにするために朝鮮総督府編纂発行教科書及び指導書、およびそれに関連する周辺領域の資料を、デジタル化される前の国立中央図書館にて蔵書複写収集した。 本研究は先に採択された萌芽研究を継続するもので、韓国国立中央図書館・釜山広域市立市民図書館内に蔵される朝鮮総督府発行の教科書・教授書・言語政策書・朝鮮政策書等といったさまざまな分野の一次資料の調査及び複写を行った。これらの資料の発掘は朝鮮教育研究領域においてその意義はきわめて大きいといえる。 審査分野:日本語教育(第一段階審査) 審査対象: 基盤研究(A)(B) 萌芽研究、若手研究(A)(B) (160件書面審査) 審査分野: 日本語教育第一段階審査) 審査対象: 基盤研究(A)(B)(C) 萌芽研究、若手研究(A)(B) (191件書面審査)

5. 日本学術振興会科学研究費 <u>研究代表者</u> 「朝鮮総督府の「国語」普及政策と教科書編纂について」 基盤研究(C)/3年間 交付決定額:208万円 課題番号:20520200	2009年度 ～ 2011年度	朝鮮総督府は朝鮮教育における国語教育政策のため、多くの教科書編纂趣意書、指導書を残している。本研究では韓国内図書館を中心に併合下の朝鮮で発行されたこれら教授書・指導書・趣意書の資料収集を行い、内地版(文部省版)との比較を行なった。
6. 日本学術振興会「最先端・次世代研究開発支援プログラム」(4年/総額3億円)の書面審査依頼	2010年4月19日	審査担当分野(日本語教育分野)に該当する申請がなかったため不実施となった。
7. 国際日本文化研究センター <u>国内共同研究員</u>(再掲) 領域:第四研究域(文化関係) 幹事:劉建輝, <u>共同研究員</u>(五十音順):浦田義和, 奥山文幸, 川口隆行, 河田和子, 五味渕典嗣, 坂元昌樹, 佐野正人, 竹内清己, 田中益三, <u>長澤雅春</u>, 西原和海, 西村将洋, 野坂昭雄, Ryan MORRISON, 山崎義光, 山本直人, 上垣外憲一, 稲賀繁美, 鈴木貞美	2010年4月1日 ～ 2011年3月31日	「日本浪漫派とアジア」(研究代表者:呉京煥/釜山大学教授)を採択テーマに、国内共同研究チームを長澤が国内の研究者から11名を組織し、日文研関係者とあわせて1年間を通じて討議を行った。概要は日本浪漫派研究の外延を中国と韓国の近代文学における近代意識を「日本浪漫派」と比較研究し、近代の超克の思想を中国と韓国というアジアの共通意識として考察・究明することにある。
8. 日本学術振興会科学研究費 <u>連携研究者</u> 研究代表者:吉原ゆかり(筑波大学) 「帝国日本の英米文学高等教育—台北帝国大学、京城帝国大学、東京師範学校を中心に」 挑戦的萌芽研究/4年間 交付決定額:351万円 課題番号:24652057 <u>連携研究者</u>:佐野正人、<u>長澤雅春</u>、徐敏姫, 柳政勲 □	2012年度 ～ 2015年度	日本の支配下にあった地域の高等教育機関における英米文学研究・教育の歴史を明らかにするために、台北帝国大学、台北高等学校、台北高等商業学校、京城帝国大学など英米文学教育・研究についての資料調査を行った。長澤は京城帝国大学英語科講師の崔掲瑞を担当した。
9. 日本学術振興会科学研究費 <u>研究代表者</u> 「朝鮮総督府発行教科書・教授書・編纂趣意書に見られる「同化思想」の形成について」 基盤研究(C)/5年間 交付決定額:416万円 課題番号:26370260	2014年度 ～ 2018年度	日韓併合以後、朝鮮内の抵抗を抑えつつ朝鮮総督府は普通学校制度を整えつつ朝鮮経営に力を注いできた。朝鮮の子らの入学する「普通学校」は、朝鮮において日本人学童が通う「初等学校」とは区別されていた。普通学校で使用する教科書は文部省版をそのまま用いるが、挿絵、仮名遣い表記、単元内容を普通学校用に編纂し直した。そうして「併合」を実践するための〈同化〉政策を推し進めてきたことを本研究では調査してきた。そして教科書のみならず、新聞・教育誌・文芸誌・映画などのメディア媒体を通じて〈同化〉思想のありようも調査・考察してきた。
10. 日本学術振興会科学研究費 <u>連携研究者</u> 研究代表者:佐野正人(東北大学) 「日韓歴史認識問題の起源と展開—戦後初期と1990年代を中心に」 挑戦的萌芽研究/4年間 交付決定額:338万円 課題番号:26570002 <u>連携研究者</u>:<u>長澤雅春</u>、吉原ゆかり、波瀲剛、渡辺直紀	2014年度 ～ 2017年度	本研究は日韓の歴史認識問題に関して、戦後初期と1990年代を中心に再検討するという計画の下で、研究を行った。まず、戦後初期と1990年代のマスメディア資料、文学関係資料、映画・ドラマ関係資料を体系的に調べ、目録を作成した。
11. 日本学術振興会科学研究費 <u>研究分担者</u> 研究代表者:藪敏晴(佐賀女子短期大学) 「短大生の体験的レディネス・アウトカムの特性とその関係性に関する研究」 基盤研究(C)/4年間 交付決定額:455万円 課題番号:16K04645 <u>分担研究者</u>:安部美恵子、中濱雄一郎、鹿毛理恵、<u>長澤雅春</u>、竹中真司、久保知里	2016年度 ～ 2019年度	短大生の体験的学修のレディネスに関する調査を、韓国の短大生と長崎の四大生をベンチマークとして実施し、その実態を明らかにするとともに、卒業生の体験的学修に関するインタビュー調査によって、短大卒業生の世代間の学習成果に質的差異があること、また、それらが短大の教育改革の進展と深くかわることを実証調査した。

12. 文部科学省「平成29年度私立大学研究ブランディング事業」(再掲) 交付決定額:7,500万円 事業期間:3年間 長澤:主たる事業計画者及び申請書執筆代表者	2017年度 ～ 2019年度	本ブランディング事業の採択の特徴は、個人等の研究を大学のブランディング事業として教授会決定した上で申請するもので、長澤の長年の科研費研究テーマである朝鮮教育(教科書)研究を基とする、韓国語教育を本学のブランド化とする教授会決議を経て申請課題を「短期大学におけるダブルディグリープログラムを推進する韓日語併記学習教材の開発と韓国文化研究拠点の構築」とし、①事業期間5年間、②申請金額1億5千万円)を申請し、これが採択された。ただし、後に事業期間が3年となった。
13. 日本学術振興会科学研究費 研究代表者 「併合下朝鮮近代文学の〈転向〉と日本語文学の成立過程」 基盤研究(C)/3年間 交付決定額:364万円 課題番号:21K00320	2021年度 ～ 2023年度	朝鮮人専用となる普通学校において国語教育を受け、その子らが成長して日本語を自在に運用できるようになったとき、民族アイデンティティと日本・日本語との衝突が生ずる。本研究は、遅れてきた朝鮮近代文学が日本近代文学とどのように関連し合い、変貌を遂げていくのか。皇民化政策のなかで生じた〈転向〉過程、その後の朝鮮文壇の成立、日本語文学の成立過程、これらを俯瞰できるよう系譜立てを行った。

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 長澤雅春『科学研究費研究成果報告書「朝鮮総督府における「国語」政策の基礎的研究—朝鮮総督府編纂発行教科書とその背景」(平成16年度～平成19年度)』 2. 長澤雅春『韓国映画を作った男たち—1905-1945』(翻訳/解題/作品データベース) 3. 吉原ゆかり『(2014年度)科学研究費研究課題報告書帝国日本の英米文学高等教育—台北帝国大学、京城帝国大学、東京師範学校を中心に』	単著 単著 共著	2008年3月 2013年1月 2015年3月	佐賀女子短期大学 (総146頁) 青弓社 (総300頁) 筑波大学 (総43頁, 長澤担当箇所 p3-p21)	日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「朝鮮総督府における「国語」政策の基礎的研究—朝鮮総督府編纂発行教科書とその背景—」(平成16年～平成19年)の研究成果報告書 『YPSILON』誌に長く翻訳連載していた「植民地化の朝鮮映画」を刊行した。安鍾和による『韓国映画側面秘史』(1962)の全訳。開化期から解放期にいたるまでの朝鮮映画の製作史。巻末には「解題」(p287-p300)と「朝鮮映画作品データベース」(277作品/p254-p285)を作成して掲載した。このデータベースは日本において初めての全体作品公開となる。 吉原ゆかり(研究代表者)による挑戦的萌芽研究により、朝鮮の『国民文学』発刊主宰者だった崔載瑞の長女崔ウォール洋姫氏を豪州シドニーの自宅で3日間にわたって、吉原ゆかり、佐野正人、長沢雅春の3名で行ったインタビューの一部内容。著者：吉原ゆかり、佐野正人、<u>長澤雅春</u>、徐敏姫、柳政勲
(学術論文) 1. <u>長沢雅春</u>「保田與重郎論—(大衆)概念の所在をめぐって」(査読有) 2. <u>長沢雅春</u>「吉本隆明試論—禁制論を手がかりにして」(査読有) 3. <u>長沢雅春</u>「保田與重郎論—初期文学論におけるリアリズムについて」(査読有)	共著 共著 単著	1983年3月 1985年3月 1987年3月	『中央大學國文』 (第26号) (中央大学國文学会) (p44-p52) 『中央大學國文』 (第28号) (中央大学國文学会) (p89-p99) 中央大学大学院	学部卒業論文から一部を活字とした。保田與重郎が雑誌『日本浪漫派』に掲載したいくつかの文芸批評は、プロレタリア文学陣営が芸術の大衆化を唱えて論争した「大衆化」論にたいし、反措定の色合いを濃くして再び俎上にのせたものである。芸術意識を先行させてきた近代日本文学、あるいは芸術の大衆化という時代にたいし、芸術意識を必要とせず芸術そのものを必要とする時代の到来それを保田は「大衆化」と考えることを考察した。 国家幻想を語る吉本隆明の『共同幻想論』が「禁制論」から始めなければならなかったのは、吉本にとってまずは「制度」の不可思議なありようについてを明らかにしたかったからである。いったん確立された「制度」は、それが確立されるやその起源を忘却させてわたしたちの意思を超えて存在する。それを吉本は「関係の絶対性」と呼ぶが、そうした「関係の絶対性」から自由であろうとすることを吉本は「自立」といい、夏目漱石は「自己本位」と呼んだことについて考察した。 中央大学大学院文学修士論文 昭和初期日本浪漫派における保田與重郎の文学論を、かれの芸術論を中心にしてプロレタリア文学理論との相違、日本近代文芸思想史における位置づけについて考察した。

4. <u>長沢雅春</u> 「初期保田與重郎論（1）－初期文学論におけるリアリズムと「生の哲学」について」（査読有）	共著	1988年3月	『論究』（第20号） （中央大学大学院） （p95-p102）	昭和初期、雑誌『コギト』を中心に掲載された保田の小説・評論は、試行錯誤しながらも自己の文学理論を確立しようとする意欲が強く伺える。それは、無力となったプロレタ文学理論に替わる理論の構築を目指したからである。とくにこの時期に一貫した主題として追究されているのがリアリズムであるが、それは写実主義としてのリアリズムではなく、ディルタイ哲学でいうところの「歴史的存在者」であることを考察した。
5. <u>長沢雅春</u> 「初期保田與重郎論（2）－〈言葉〉と〈作家的危機意識〉について」（査読有）	共著	1988年3月	『中央大學國文』（第30号） （中央大学国文学会） （p152-p162）	作家が自己の「生」や「体験」をリアルに描こうとする場合、そこに障害としてあるのが言葉である、と保田はいう。それを保田は「作家的危機意識」と呼び、「ことばの確立以前の世界」を表出し得ない絶望に陥った詩人としてヘルダーリンの精神錯乱に言及することについて考察した。
6. <u>長沢雅春</u> 「初期保田與重郎論（3）－「『批評』の問題」と近代解体の論理」（査読有）	共著	1988年3月	『大学院研究年報』（第17号） （中央大学文学研究科 篇） （p53-p65）	プロレタリア文学陣営内で論議された「政治的価値と芸術的価値」論争は、両者の価値とくに芸術的価値の普遍性を疑わないところに論争の不毛性を保田は見た。わたしたちが普遍と考える「芸術」、それは歴史的な起源に遡行しうるものであり、近代が構築したイデオロギーにすぎないものだとして保田は説く。こうした思想を手にするによって保田は、近代が普遍化した「芸術」や「人間」の普遍性を疑い、日本近代思想の解体へと向かおうとしたことについて考察した。
7. <u>長沢雅春</u> 「橋川文三試論－中学時代の橋川文三」	共著	1992年6月	『白』（第1号） （p18-26）	戦後の橋川文三の思索的営みは、自己のロマン派体験は幻影にすぎなかったのか、という自省から始まった。戦争を神の啓示として受け取って戦争死を自明と認めた橋川のロマン派体験はどのように形成されたのか。橋川のロマン派体験は特異なものには違いないが、それを個的体验としてのみ考えることはできない。早熟な橋川の少年時代の文章や回想を検討することで、ロマン派との出会いに至る必然的な橋川の世界風景について考察した。
8. <u>長沢雅春</u> 「高時代の橋川文三－郷土喪失感情とロマン派体験」	共著	1992年12月	『白』（第2号） （p28-p38）	一高に入学するために広島から上京した橋川文三が眼にしたものは、汚雑と騒音の帝都であった。帝都＝近代の現実を見た青年橋川は以後、「日本への回帰」を説く萩原朔太郎文学へと接近し、また近代の陥穽を語る保田與重郎の批評世界へと惑溺していくことになった。橋川のロマン派への接近は、当時の近代による故郷＝地方の喪失感情とパラレルな関係においてなされたものであることについて考察した。

9. <u>長沢雅春</u> 「アカシヤのある近代・文学空間(1)」	共著	1993年6月	『白』(第3号) (p26-p33)	樹木アカシヤの名にはある懐かしさがあるが、それはなぜなのかという疑問からアカシヤを通じた日本近代史を試みるもので、そのアカシヤが近代日本にもたらされた経緯についてを考察した。津田梅子の父津田仙によってウィーン万博より持ち込まれたアカシヤはまず皇城堀端に植樹されたが、その奥には明治天皇が松に囲まれており、銀座の煉瓦街では松と桜が街路樹として賑わっていた。その不釣り合いを明治時代の風景論として考察した。
10. <u>長沢雅春</u> 「アカシヤのある近代・文学空間(2)ー明治の都市空間とアカシヤ」	共著	1993年12月	『白』(第4号) (p16-p23)	明治21年は市区改正条例の公布によって帝都の産声をあげ、二葉亭四迷『浮雲』の登場によって本格的な近代文学が始まった。この都市は成熟した明治天皇が御真影としての肖像写真を残した。鹿鳴館時代が終焉し、国粹主義が醸成していくなかで西鶴・近松の復活が叫ばれた。そのようななかで帝都の街路に植樹されたのが松柳桜である。街路樹の植樹は政治的思想をも担って植樹されたことについて考察した。
11. <u>長沢雅春</u> 「アカシヤのある近代・文学空間(3)ー樹木からみた明治文学風景の変容」	共著	1994年6月	『白』(第5号) (p28-p39)	アカシヤが近代文学に登場しはじめるのは日露戦後である。それまで詩を中心に作品を賑わしていた景物はもっぱら松・桜・梅、あるいは月・露・雁といったものであつて、新たな景物(風景)が近代文学に登場するためには伝統的な景物の否定がなされなければならないことについて考察した。
12. <u>長沢雅春</u> 「アカシヤのある近代・文学空間(4)ー明治の文学風景と樹木の変容」	共著	1995年1月	『白』(第6号) (p29-p39)	徳富蘆花や国木田独歩は伝統的な美景観である桜・松・梅の否定の上に雑木林の美を発見し、とともに自由な口語文体を自己のものとした。明星派によるアカシヤが見出されるためにはまず、伝統的な歴史性を持たない雑木林の美の発見がなければならなかったことについて考察した。
13. <u>長沢雅春</u> 「韓国語初学者の韓国語会話教材への試みー用言「第三語基」連用形と「요」体を中心に」	共著	1999年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第33集) (p13-p24)	韓国語には日本語と同じように連用形というものがある。日本語において連用形は、「走り出す」という連語や「食べた」といった過去形の作成においても重要な役割をしているわけだが、それは韓国語でも同じである。本稿では、日本語において頻度の高い連用形を韓国語に当てはめ、韓国語を学ぶ初学者が日常的な日本語のニュアンスで韓国語会話ができるよう、その教材を試みたものである。
14. <u>長沢雅春</u> 「三島由紀夫『太陽と鉄』ー物語化する「私」と「現実」」	共著	2000年11月	『国文学解釈と鑑賞』(65巻11号/至文堂) (p107-p120)	『太陽と鉄』において、作家三島はそれまで自らがものしてきた「言葉」への疑いを投げかけ、言葉は「現実を蝕む腐食作用」であるとした。三島は「言葉の全く関与しない領域にのみ」において「現実」と「肉体」の存在を認め、この両者を同義とみなした三島由紀夫の「現実」と「肉体」「私」について考察した。

15. <u>長沢雅春</u> 「日帝統治下の韓国映画試論」（査読有）	共著	2000年11月	『國際語文學』（2号） 國際語文學会（韓国） （p107-p120）	韓国映画史は、日本や日本人そして日本映画が韓国映画史に密接にかかわってきたにもかかわらず、その実態というものは、日本サイドからの研究ではいまだ蒙昧な領域となっている。韓国でも、この期間をめぐる資料研究というものも、度重なる戦禍によって、限られた資料をもとに重複した情報が繰り返される場合が少なくない。そのような資料状況のなか、日本側からの資料もつき合わせることで、この時期の韓国映画史に空いた情報の穴を埋めることができるはずで、それが、日本映画史ひいては日本近代民衆史の補完にもなる。本稿では韓国開化期における活動写真の伝来をめぐる諸説についてあきらかにした。
16. <u>長沢雅春</u> 「開化期韓国における活動写真の伝来と近代日本」	共著	2001年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』（第35集） （p13p-24）	韓国映画史で展開される活動写真の伝来をめぐっては諸説あるが、その伝来の時期についてはだいたい一八九七年から一九〇五年にかけてである。一八九七年というのは日本で映画の興行が始まった年であり、一九〇五年は日露戦争を終結した日本が列強各国の承認の下、第二次日韓協約＝乙巳保護条約を結んで大韓帝国を日本の保護国とした年である。この八年間をめぐる諸説の背景について考察した。
17. <u>長沢雅春</u> 「日本浪漫派文献目録－昭和五十四（一九七七）以降－長沢雅春編」	共著	2002年5月	『国文学解釈と鑑賞』（67巻5号/至文堂） （p204-p212）	前回に特集された至文堂『国文学解釈と鑑賞』の日本浪漫派特集は昭和54年であったため、それ以降に刊行された日本浪漫派の文献を漏らさず目録とした。
18. <u>長沢雅春</u> 「日本浪漫派と影山正治－“大東塾グループ”の昭和維新文学運動」	共著	2002年5月	『国文学解釈と鑑賞』（67巻5号/至文堂） （p74-p79）	日本浪漫派の保田與重郎と大東塾長影山正治ととの関係に共通するものは、戦後二〇年を正確に記述することに拘泥してきたところにあった。その「正確さ」とは何かについて考察した。

19. 長沢雅春「釜山広域市立市民図書館蔵 朝鮮総督府編纂発行教科書目録」	共著	2003年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第37集) (p15-p23)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。釜山広域市にある市立市民図書館の設立起源は一九〇一(光武五)年まで遡ることができ、朝鮮半島をめぐる幾多の戦禍を逃れて現在の蔵書数は四十五万余冊に及び、とくに資料室内には日帝期の旧朝鮮内で刊行された書籍を中心とするおよそ1700冊あまりの和書が保管されている。日本国内ではほとんど知名度のないこの釜山広域市立市民図書館で蔵書調査を行ってきたが、その資料室内に保管される日帝期和書から大韓帝国学部編纂教科書と朝鮮総督府編纂教科書の人文系にかぎって目録を作成した。
20. 長沢雅春「韓国国立中央図書館蔵 朝鮮総督府編纂発行教科書目録」	共著	2004年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第38集) (p97-p108)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。大韓民国ソウル特別市にある国立中央図書館は、旧朝鮮総督府図書館(1923年設立)蔵書をそのまま受け継いで光復(日帝からの解放)1945年に開館した後、1963年の韓国図書館法制定によって「国立中央図書館」と改称されたものである。当館が所蔵するおよそ9,500冊の旧朝鮮総督府図書館蔵日帝期和書について、国語、歴史、修身、唱歌に関する朝鮮総督府発行教科書および教授書221冊をリストアップした。
21. 長沢雅春「明治日本から帝国日本への転位」(査読有)	共著	2005年5月	『日本近代文学』(72集5号) (p198-p206)	中根隆行著『〈朝鮮〉表象の文化誌』を読解しながら、近代日本文学がどのように朝鮮像を歪めて表象してきたのか、日本近代文学における朝鮮についての考察した。
22. 長沢雅春「寺田透と戦後派文学」	共著	2005年5月	『国文学解釈と鑑賞』(70巻11号/至文堂) (p158-p162)	青年期に戦争を体験した寺田透は、戦後の同世代戦後派文学のなかで特異な位置にある。その寺田文学の原点となる戦争体験はどのようなものであったかを考察した。
23. 長沢雅春「韓国学部の普通学校制度と「義務教育精神の廃止」について」	共著	2006年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第40集) (p1-p10)	科研費採択課題(基盤研究(C))による論文。日韓併合によって統監府から行政府を引き継いだ総督府は、朝鮮教育の理念及び教育制度を「日語」から「国語」教育へと転換させた。その中核となるのが、朝鮮人を対象とする普通学校制度である。本稿では、併合後の普通学校制度がどのようなものであったかについて考察した。
24. 長沢雅春「日韓併合下における朝鮮教育の同化思想についてー学務官僚弓削幸太郎と大野謙一の場合」	共著	2007年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第41集) (p1-p12)	科研費採択課題(基盤研究(C))による論文。日韓併合後の朝鮮総督学務府官僚による同化論を、朝鮮教育令・改正朝鮮教育令期において考察する。
25. 長沢雅春「韓国国立中央図書館蔵 日帝期朝鮮教育資料目録ー渡辺学・阿部洋編『日本植民地教育政策史料集成(朝鮮編)』(龍溪書舎)未収録」	共著	2008年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第42集) (p65-p71)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。韓国国立中央図書館を中心に蔵書されている朝鮮教育資料のうち、渡辺学・阿部洋編『日本植民地教育政策史料集成(朝鮮編)』(龍溪書舎)に未収録となっている資料をデータベースとした。
26. 長沢雅春「併合下の朝鮮映画作品年表(1903-1945)」	共著	2012年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第46集) (p77-p90)	1903年から1945年までの朝鮮で製作された映画作品について、製作会社/製作者/監督/出演/脚本/撮影等を詳細に調査し、朝鮮教育研究の基礎資料として100作品を掲載したものである。

27. <u>長澤雅春</u> 「釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(1)『朝鮮関連解放前日書篇』より」	共著	2016年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第50集) (p233-246)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。釜山広域市立市民図書館に所蔵されている日帝期和書の総目録化を目指し、本稿では教科書・教育関係資料を掲載した。
28. <u>長澤雅春</u> 「釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(2)」	共著	2017年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第51集第2号) (p301-p319)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。釜山広域市立市民図書館に所蔵されている日帝期和書の総目録化を目指し、本稿では文学・歴史関係資料を掲載した。
29. <u>長澤雅春</u> 「釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(3)」	共著	2018年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第52集第2号) (p133-p144)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。釜山広域市立市民図書館に所蔵されている日帝期和書の総目録化を目指し、本稿では政治・経済関係資料を掲載した。
30. <u>長澤雅春</u> 「釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(4/了)」	共著	2019年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第53集) (p183-193)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。これまでの科研費による調査から、釜山広域市立市民図書館に所蔵されている日帝期和書の総目録化を目指し、本稿では新聞・総合誌・メディア関係資料を掲載した。
31. <u>湯艶</u> , <u>長澤雅春</u> 「ビジネス日本語レッスンの新しいパターンの模索-ビジネスマナーの巧みな融合」	共著	2019年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第53集) (p145-150)	中国における「商用日本語(ビジネス日本語)」は日本語科目の核心的位置づけとされているが、どの大学も教材の作成に苦心している。 本稿は、南通科技職業学院の湯艶氏とともに、中国の大学生にとって有用となるビジネス日本語教科書の分析を行った。
32. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮文学の〈誕生〉についての試論-白鐵著『新文学思潮史』を底本として」	共著	2020年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第54集) (p1-p9)	朝鮮近代文学の誕生過程を韓国の資料を通じて考察するもので、これまでの科研費採択課題を基盤研究として、啓蒙期における朝鮮近代文学の成立について、白鐵著『新文学思潮史』に言及しながら、民族の芽生えと言文一致の視点から日本近代文学の場合も含んで考察した。
33. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮近代文芸批評作品リスト (1) 1930. 1-1930. 9」	共著	2022年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第56集) (p87-p95)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。近代朝鮮における文芸活動を俯瞰するため、1930年代当時の新聞・雑誌に掲載された文芸時評・評論を網羅して年代ごとにリスト化した。(1)では1930. 1-1930. 9までをデータベース化した。
34. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮近代文芸批評作品リスト (2) 1931. 12-1933. 1」	共著	2022年8月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第57集第1号) (p61-p75)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。1930年代朝鮮近代文学の批評作品として1931. 12-1933. 1までをデータベース化した。
35. <u>長澤雅春</u> 「高橋和巳〈わが解体〉の意味するもの」(小学館刊『電子版高橋和巳・高橋たか子全集』(第17巻 解説))	共著	2022年12月	小学館 (電子書籍版のため、 6,962字)	作家高橋和巳の1968年以後に刊行された『孤立の憂愁の中で』『わが解体』『自立の思想』『人間にとって』『暗黒への出発』と、単行本未収録の54編からなる評論及びエッセイ等を収録した本巻を解説した。
36. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮近代文芸批評作品リスト (3) 1933. 2-1933. 12」	共著	2023年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第57集第2号) (p73-p89)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。1930年代朝鮮近代文学の批評作品として1933. 2-1933. 12までをデータベース化した。
37. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮近代文芸批評作品リスト (4) 1934. 1-1934. 12」	共著	2023年8月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第58集第1号) (p81-p97)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。1930年代朝鮮近代文学の批評作品として1934. 1-1934. 12までをデータベース化した。
38. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮近代文芸批評作品リスト (5) 1935. 1-1935. 12」	共著	2024年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第58集第2号) (p77-p97)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。1930年代朝鮮近代文学の批評作品として1935. 1-1935. 12までをデータベース化した。

39. 長澤雅春「朝鮮近代文芸批評作品リスト (6) 1936. 1-1936. 12」	共著	2024年8月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第59集第1号) (p81-p101)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。1930年代朝鮮近代文学の批評作品として1936. 1～1936. 12)までをデータベース化した。
40. 長澤雅春「朝鮮近代文芸批評作品リスト (7) 1937. 1-1937. 12」		2025年3月	『佐賀女子短期大学研究紀要』(第59集第2号) (p99-p115)	科研費採択課題(基盤研究(C))による基礎調査。1930年代朝鮮近代文学の批評作品として1937. 1～1937. 12)までをデータベース化した。

(翻訳)				
1. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画史(1)」	共著	2005年1月	『YPSILON』(第13号) (p46-p55)	安鍾和著『韓国映画側面秘史』(1962 年、春秋閣刊)の存在は日本では知られていないが、併合下朝鮮の演劇・映画製作に携わる人々の生き生きとした姿を描いている。併合下の朝鮮エンターテインメントは朝鮮総督府の植民地政策から始まったことがわかる。大量の脚注で解説を付してある。
2. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画史(2)」	共著	2005年7月	『YPSILON』(第14号) (p31-p39)	併合から解放までの朝鮮映画を俳優・監督として生きた安鍾和が証言として著した『韓国映画側面秘史』(1962 年、春秋閣刊)の全訳を目指した。本稿では併合前の開化期における演劇から活動写真が上映されていく経緯を描いている。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
3. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画史(3)」	共著	2006年2月	『YPSILON』(第15号) (p72-p81)	朝鮮初の連鎖劇(一部に活動写真を導入)『義理的仇闘』が上映された当時の演劇・活動写真についての大衆の反応や、近代化されていく京城の市街などについて描いている。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
4. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(4)」	共著	2006年1月	『YPSILON』(第16号) (p28-p32)	京城で流行した連鎖劇に登場した朝鮮における女優の元祖馬豪政の演劇と人生について描いた。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
5. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(5)」	共著	2007年6月	『YPSILON』(第17号) (p48-p56)	朝鮮総督府は貯蓄奨励映画製作を劇作家尹百南に委託して『月下の盟誓』(1922)を完成させた。これが近代朝鮮における映画製作の嚆矢となる。以後、朝鮮総督府は啓蒙を目的として映画製作を推進していくことになる。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
6. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(6)」	共著	2007年12月	『YPSILON』(第18号) (p52-p60)	高佐貫長という日本人僧侶が王必烈という朝鮮人名で監督と日本人技師による『海の秘曲』(1924)が、民間による映画製作の嚆矢となる。その製作は釜山の武器商人が設立した朝鮮キネマ株式会社であった。この作品で主演した安鍾和がその経緯を記録している。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
7. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(7)」	共著	2008年7月	『YPSILON』(第19号) (p36-p45)	朝鮮映画の名作とされる『アリラン』の監督主演脚本することになる若き羅雲奎を咸興(現北朝鮮)で見出した安鍾和による、羅雲奎にまつわるエピソードやかれの映画への情熱、映画界デビューの経緯を描いた。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
8. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(8)」	共著	2008年12月	『YPSILON』(第20号) (p96-p105)	朝鮮総督府の依頼を受けて『月下の盟誓』に成功した尹白南は「尹白南プロダクション」を設立して朝鮮時代の古典作品『沈清伝』を映画化したが、稚拙な作品作りのために興行は失敗して以後、映画界から姿を消した。一方で知識人趙一齋は鶏林映画協会を創立する尹白南プロダクションの構成員たちはそこに移り、新たな映画製作に取り組んだ。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。

9. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(9)」	共著	2010年1月	『YPSILON』(第22号) (p52-p59)	鶏林映画協会が製作した李慶孫監督『長恨夢』は日本の『金色夜叉』を翻案した映画で興行は大成功した。これは鶏林映画協会を設立した趙一齋が新聞毎日申報に連載した翻訳小説を映画化したものだが、日本の近代小説は朝鮮の新聞に翻案連載されて人気を博していたことが描かれている。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
10. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(10)」	共著	2010年7月	『YPSILON』(第23号) (p28-p35)	羅雲奎が中心となった抗日映画『アリラン』の製作は、京城の日本人雜貨商が設立した朝鮮キネマ・プロダクションだった。この作品は抗日の色合いが強かったため、上映にあたっては朝鮮総督府の検閲をかいくぐる必要があった。その手法など、映画『アリラン』の製作エピソードが描かれる。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
11. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(11)」	共著	2011年1月	『YPSILON』(第24号) (p101-p120)	朝鮮近代文学作家で知られる沈熏は、鶏林映画協会が製作した李慶孫監督の『長恨夢』の主演だった。かれはその後日本へ留学して映画製作技法を学んで帰国すると『遠く空が明けるとき』を製作して興行は成功した。映画人そして小説家沈熏について描いた。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
12. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(12)」	共著	2012年2月	『YPSILON』(第26号) (p43-p57)	『アリラン』の成功を収めた羅雲奎と日本人による朝鮮キネマ・プロダクションだったが、その後『風雲児』『野鼠』『金魚』など羅雲奎が監督脚本主演する映画を製作したが興行は失敗し、朝鮮キネマ・プロダクションは解散したため、新たに羅雲奎プロダクションを設立して再起することとなった。詳細な脚注を当時の新聞や研究書から引用・解説した。
13. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(13)」	共著	2013年2月	『YPSILON』(第28号) (p38-p62)	独立プロダクションを持った羅雲奎だったが興行に失敗の連続を重ねて自身のプロダクションを失った。だが、失意となった羅雲奎はそこから『アリラン後篇』『鉄人』などを製作して黄金時代を築くこととなった。
14. <u>長沢雅春</u> 訳「韓国映画側面秘史－植民地下の朝鮮映画(14/終)」	共著	2013年11月	『YPSILON』(第29号) (p22-p32)	羅雲奎の死にいたるまでのエピソードと同時期の朝鮮映画作品についての製作秘話。ここまで、原本となる『韓国映画側面秘史』の半分までの翻訳を終了させたことになるが、完全翻訳本として『韓国映画を作った男たち』(青弓社/総300頁)を刊行することとなった。

(学会発表)				
1. <u>長沢雅春</u> 「保田與重郎論ーリアリズム論と幻想の狭間で」	—	1986年6月	中央大学国文学会春季大会(於:中央大学)	日本浪漫派の保田與重郎の初期文学論から読み取れる、満州事変のロマン的解釈とリアリズム的解釈としての満州事変をめぐる動揺について発表した。
2. <u>長沢雅春</u> 「アカシヤのある日韓の文学風景」	—	2000年4月	日本比較文学会九州支部例会(於:九州大学)	朝鮮総督府が植樹した朝鮮におけるアカシヤによる植民都市と、近代日本に植樹された街路樹のある首都。街路樹のある都市風景が両国の近代文学の成立に及ぼした経緯について発表した。
3. <u>長沢雅春</u> 「日帝統治下における日本人の朝鮮映画製作活動について」	—	2000年10月6日	(韓国)国際語文学会秋季大会(於:威徳大学校)	朝鮮映画製作の草創期に活躍した在朝鮮日本人技師の役割と携わった作品及びその位置づけについて発表した。
4. <u>長沢雅春</u> 「日帝下の朝鮮映画ー日本人の活動を中心に」	—	2001年6月10日	日本社会文学会春季大会(於:法政大学)	京城・釜山における日本人映画館経営者について、韓国に蔵される一次資料から抽出された人間像について発表した。
5. <u>長沢雅春</u> 「教科書に書かれた〈外地〉と〈内地〉ー朝鮮総督府編纂教科書を中心にー」	—	2006年11月	日本近代文学会秋季大会(於:九州大学)	朝鮮総督府編纂教科書「修身書」に描かれる朝鮮人図像と文部省版「修身書」に描かれる日本人図像を読み解き、朝鮮総督府による第一次教育令の根幹となる普通学校制度の実情について発表した。
6. <u>長沢雅春</u> 「崔洋姫氏の語る父崔載瑞と『国民文学』」	—	2016年5月20日	(韓国)東アジア日本学会春季大会(於:全北大学)	1940年より日本の敗戦まで『国民文学』として日本語文総合誌を刊行し続けた京城帝国大学講師崔載瑞の長女崔洋姫をシドニーの自宅に訪ね、父崔載瑞の家庭における発言、また父から聞かされた文学思想についてインタビューした貴重な内容を報告した。
7. <u>長沢雅春</u> 「1920年代朝鮮教育下の朝鮮映画の主人公たち」	—	2017年6月17日	(韓国)国際語文学会(於:京畿大学)	1920年代朝鮮教育下の若者たちの当時おかれていた境遇を『月下の盟誓』『アリラン』などの朝鮮映画から読み解き、植民地下の同化教育のあり方を考察し、発表した。
(シンポジウム/講演等)			(主催・講演場所)	
1. (講演) <u>長沢雅春</u> 「韓国の道路と交通事情」	—	1999年10月13日 1999年10月20日	佐賀県警察本部交通課(於:佐賀県自動車運転試験場)	佐賀県自動車運転試験場等に勤務する教官対象のセミナーを2回行った。受講者は1回につき100名程度。
2. (セミナー) <u>長沢雅春</u> 「現代文学・映画からみるアジア文化の動向」	—	1999年8月9日 ～8月13日	第3回九州アジア大学セミナー(第6分科会座長)(於:唐津ロイヤルホテル)	山口県、福岡県、佐賀県、長崎県の各県が年毎に担当する「九州アジア大学」は、韓国人中国人などの留学生と日本人学生が参加して分科会に分かれて5日間のセミナーを行う。当該年度は佐賀県が担当県となった。長澤は「アジアの戦後について文学や映画から考える」ことをテーマにした。
3. (講演) <u>長沢雅春</u> 「韓日の比較文化について」	—	2000年6月3日	(韓国)慶州大学日語日文学会(於:慶州大学校)	2002年日韓共催ワールド杯を間近に控えて、日韓の若者たちが今後どのような関係性を築いていけるか、日本の若者たちがどのように韓国を考え、日韓の過去の歴史をどのように考えているか、についての講演を行った。
4. (韓国語通訳) <u>長沢雅春</u> 「国際シンポジウム韓国現代文学と日本」	—	2000年7月8日	日本社会文学会九州沖縄支部大会(於:筑紫女学園大学)	日本社会文学会が主催する国際シンポジウム「韓国現代文学と日本」において、韓国側発表者の同時通訳を担当した。

5. (講演) <u>長沢雅春</u> 「日帝下の朝鮮映画」	—	2005年7月4日	世界史懇話会 (於:佐賀市立図書館 ホール)	佐賀県内の世界史を担当する高校教員によって組織された「世界史懇話会」からの招待講演。近代日本の文化装置としての活動写真及び映画を用いての朝鮮における啓蒙の仕組みについて講演した。
6. (シンポジウム) <u>長沢雅春</u> 「日本浪漫派の文学と戦争」	—	2007年10月23日	日本社会文学会秋季大会シンポジウム (於:同志社大学)	シンポジウム「近代とナショナリズム」において、戦中昭和期の視点から日本のナショナリズムとそれに感化されていった若者たちの戦後思想の形成について、3名の研究者による報告と質疑応答を行った。
7. (シンポジウム) <u>長沢雅春</u> 「朝鮮総督府における「国語」政策の基礎的研究」	—	2007年12月25日	日本統治期朝鮮半島研究ワークショップ (於:九州大学国際ホール)	九州大学韓国研究センター主催の科研基盤研究(B)による2日間にわたる国際シンポジウムで、韓国・朝鮮関係の科研費採択中の研究者による研究報告とシンポジウム。長澤は「朝鮮総督府による「国語」政策の概要について」の研究報告を行った。
8. (シンポジウム) <u>長沢雅春</u> 「併合下の朝鮮映画と日本—安鍾和著『韓国映画側面秘史』を読む」	—	2009年12月20日	九州大学韓国研究センター (於:九州大学国際ホール)	「植民地期および米軍政下の朝鮮映像・画像アーカイブ—映像・画像をいかに語らせるか」をテーマに韓国・ドイツ・アメリカからの研究報告があった。長澤は併合下の朝鮮において映画製作を担った無名の日本人たちの関わりについて報告した。
9. (講演) <u>長沢雅春</u> 「2010年、日韓併合100年目の年を迎えて—歴史解釈は自然主義(リアリズム)かロマン主義か—」	—	2010年2月14日	佐賀女子短期大学生涯学習センター主催 閉講式講演 (於:佐賀女子短期大学)	石川啄木が日韓併合時の際に作歌した「地図の上朝鮮国に黒々と墨を塗りつつ秋風を聞く」の解釈が、啄木の革命精神を表しているとされてきたのはなぜかという疑問から、併合時の新聞各社の日韓併合記事を用いて仮説を立ててみた。
10. (講演) <u>長沢雅春</u> 「韓日関係の将来と展望—儒教的世界からの視点」	—	2014年9月22日	(韓国)慶南大学校師範大学日語日文学会 (於:慶南大学校)	(韓国)慶南大学校師範大学日語日文学会の要請による招待講演。日韓関係が悪化する中、日韓の将来をどのように考えるか、韓国特有の儒教思想から考察した講演。
11. (講演) <u>長沢雅春</u> 「韓国国立中央図書館(旧朝鮮総督府図書館蔵書)の利用について—科研費による資料調査より—」	—	2015年10月15日	平成27年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会 (於:佐賀女子短期大学)	「福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会」からの依頼講演。長澤が現在行っている、科研費による韓国国立中央図書館においての資料調査の方法及び当該図書館の外国人利用方法についてを講演した。
12. (講演) <u>長澤雅春</u> 「東アジアにおける質的保証を伴う大学間交流のあり方—短大におけるダブルディグリー・プログラムについて—」	—	2016年1月22日	熊本学園大学国際交流センター (於:熊本学園大学)	熊本学園大学国際交流センターからの依頼講演で、対象者は外国語学部所属教員。大学のグローバル化が課題となっている昨今、短大として逸早く韓国の大学とダブルディグリー・プログラム協定を結んだ本学の試みについて、そのプログラム作成の担当者である長澤から、取組の事例を報告した。
13. (講演) <u>長澤雅春</u> 「日本のアニメ産業の現状と分析」	—	2017年9月14日 ～2018年9月16日	(韓国)春川アニタウンフェスティバル・カンファランスシンポジウム (於:国立江原大学)	国立江原大学江原文化産業振興院春川アニタウン文化産業支援センターが主催する「春川アニタウンフェスティバル・カンファランスシンポジウム」(テーマ「第4次産業革命とアニメーションの進化」)において、当該タイトルでの招待講演を行った。
14. (講演) <u>長澤雅春</u> 「韓国の歴史と文化、そして韓流ブームへ」	—	2018年8月30日	佐賀県神埼市いきいき大学講座 (於:ぎんれいホール)	韓流ブームの背景にはどのような政治と経済状況が潜んでいたのかについて、1997年のアジア通貨危機による国家破綻の危機から文化振興法の制定、それによる『冬のソナタ』をはじめとする数々の韓流ドラマの政策と日本への輸出が現在の減点となっていることを講演した。

16. (講演)長澤雅春「地方短期大学におけるグローバル教育の試み」	—	2021年12月17日	九州地区私立大学事務連絡協議会 (於:西九州大学)	韓国との交流事例を紹介し、ダブルディグリー・プログラムの導入など様々な教育プログラムの開発に取り組んだ本学の国際交流のあり方と、これまでの経緯について講演を行った。
------------------------------------	---	-------------	------------------------------	--

17. (講演)長澤雅春「私立大学研究ブランディング事業とグローバル教育」	—	2021年12月26日	グローバル人材育成教育学会 (於:佐賀女子短期大学)	文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」採択内容とその成果報告、あわせて今後あるべきグローバル教育のありかたについて講演。
18. (講演)長澤雅春「韓流ドラマで学ぶ～朝鮮三国の建国神話」	—	2022年8月12日	韓国民団佐賀県本部 (於:佐賀県立生涯学習センターアバンセ)	韓国民団佐賀県本部77周年光復節記念式典として、古朝鮮時代から後三国時代までの通史として「韓流ドラマで学ぶ～朝鮮三国の建国神話」と題する招待講演を行った。
(その他)				
1. 長沢雅春「問われ続ける戦争体験論の意味」	共著	1994年3月	『神奈川大学評論』 (第17号) 神奈川大学出版部 (p138)	学徒出陣の第一回派兵から50年を迎えて、学徒においてあの戦争とは何であったのかについて、肺結核が原因で学徒検査に漏れてしまった橋川文三の戦争体験を検証することで、戦後思想の意味を問い直した。
2. 長澤雅春「路上の「韓国」—川崎コリア・タウンから」	共著	1996年8月	『FOR』(第9号) p18-p21	神奈川県川崎市には通称「コリア・タウン」と呼称される区域がある。この区域を探索しながら現代の韓国の商店との比較、また川崎コリアタウンの歴史的について編集者とともに語った。
3. 長沢雅春「俳句の現在(1)」	共著	1997年6月	『俳句界』 (第9号/北溟社) (p9-p13)	正岡子規没後の明治37年、高浜虚子は「写生趣味と空想趣味」と題して子規との対話を回想している。子規はそれまでの伝統的な歌語にまわりついている歴史性を排除することで新しい風景を見出そうとするのだが、虚子にはそのような子規の考えには否定的だったが、日本近代文学が古典を脱してあらたに西洋的文学を目指すためには正岡子規の思想が必要だったこと、現代の俳句は子規が発見した風景によることを考察した。
4. 長沢雅春「俳句の現在(2)」	共著	1997年7月	『俳句界』 (第10号/北溟社) (p103-p109)	子規による和歌・俳諧を伝統から断絶させようとする意思の背景には、子規が在籍した当時の東京大学が実証主義という近代のイデオロギーを学問の体系としていたことと無縁ではなかった。旧派和歌と俳諧が主流をなしていた明治20年代にあって、子規の思想は和歌・俳諧をいかにして近代イデオロギーである「文学」とするかにあり、現代のように俳句は文学であるという自明の論理はそこにはなかったことを考察した。
5. 長沢雅春「俳句の現在(3)」	共著	1997年8月	『俳句界』 (第11号/北溟社) (p124-p129)	子規の和歌・俳諧革新への意思は明治20年代を支配する制度からの脱構築を目指したものであったが、その子規でさえ創作するとなると新たな詩想＝風景を見出すことは容易ではなく、そのためには明治30年代(=20世紀)を待たなければならなかった。こうして近代俳句は「写生」と「花鳥諷詠」という二項対立の時代を迎えたわけだが、それは現代俳句でも変わるものではないことを考察した。

6. <u>長沢雅春</u> 「俳句の現在(4)」	共著	1997年1月	『俳句界』(第13号/北溟社)(p117-p124)	子規の思想によって伝統的な定型詩想から解き放たれた俳句は、近代文学がそうであつたように新たな詩想として「内面」を求めてきたが、その一方で「内面」のイデオロギー性に反発して「内面」を排除しようとする流れもある。現代俳句は絶えず新たな風景を模索し続けているわけだが、近年の傾向としては多様な言葉の模索よりも安定した和語の多用による傾向が強い。それは和語に潜む隠喩に頼る新たな風景を模索しようとしていることについて考察した。
7. <u>長沢雅春</u> 「釜山の応用問題」	共著	1998年1月	『YPSILON』(第4号)(p2-p20)	自称「中進国」とする韓国は経済的国家危機を迎えながらも国民生活の活気は、落ち着いた日本の雰囲気よりかなり熱いものがある。ある意味日本のコピー国家として解放後から経済成長を遂げてきた現代韓国を比較文化論として描いた。
8. <u>長沢雅春</u> 「滞韓日誌(1)」	共著	1999年8月	『YPSILON』(第5号)(p48-p57)	長澤が韓国に滞在した1995-1998年のうち、1995年における韓国国内の対日認識、独島竹島問題、教科書問題についての大学教員や大学生の考え、また報道について考察した韓国文化論。
9. <u>長沢雅春</u> 「滞韓日誌(2)」	共著	2000年5月	『YPSILON』(第6号)(p85-p93)	1996年における朝鮮総督府解体に対する国民の考え、翌年の大統領選挙を迎えた金泳三大統領の衰退と金大中議員の大統領候補としての復活など、韓国の内側を考察した韓国論。
10. <u>長沢雅春</u> 「韓国映画史(1)」	共著	2000年11月	『YPSILON』(第7号)(p92-p100)	開化期の韓国映画の興りについては史料が不足しているため様々な諸説が入り乱れている。そのような状況のなかでも韓国映画史を通史として描こうとする研究者たちの努力によってアウトラインが描かれてきたことを考察した。
11. <u>長沢雅春</u> 「滞韓日誌(3)」	共著	2001年7月	『YPSILON』(第8号)(p58-p65)	長澤が韓国に滞在した1995-1998年から、1997年に突然生じたアジア通貨危機による韓国の経済危機と大統領選挙結果について、IMF受入れと国民の悲哀と絶望、大学という現場と若者の思考などについてを韓国の内側から考察した1990年代後半期の韓国文化論。
12. <u>長沢雅春</u> 「韓国映画史(2)」	共著	2002年2月	『YPSILON』(第9号)(p74-p78)	開化期韓国への活動写真の移入はどのようにしてなったのか。そのために日本への活動写真の機材とフィルムの輸入経緯と上映経緯史料によって考察し、吉沢商店(現東宝)の京城における上映班の存在について指摘した。
13. <u>長沢雅春</u> 「ソウル」	共著	2002年11月	『YPSILON』(第10号)(p59-p61)	現在のソウル特別市にはまだ併合時代の名残ある町名が残っている。たとえば、明洞という町は日本の敗戦までは明治町であった。現在のソウル市の景観からかつての京城市を探訪する紀行文。
14. <u>長沢雅春</u> 「日韓近代をめぐる雑感」	共著	2003年9月	『YPSILON』(第11号)(p106-p114)	現代の日本では韓国語を学ぼうとする若者が増えているが、1990年代までは日本語を学ぶ韓国人の若者が多かった。その日本語について、併合下の朝鮮では普通学校を通じて「国語」教育がなされたが、敗戦後は「日本語」となった。日本における「国語」と「日本語」の攻防について考察した。
15. <u>長沢雅春</u> 「滞韓日誌(4)」	共著	2004年6月	『YPSILON』(第12号)(p44-p49)	1990年代後半の韓国はまだインフラの途上国である。数百人が死亡する後進国型の重大事故が相次ぎ、先進国に成れないと国民は悲嘆する。このような韓国国民の国内政治・経済に向けた批判、そして2002年ワールド杯に向けた情熱についてを韓国の内側から考察した。

16. <u>長沢雅春</u> 「蒲原有明「松浦あがた」」	共著	2007年4月	『国文学解釈と鑑賞』(72巻4号/至文堂)(p207-p210)	「松浦あがた」は若き蒲原有明が明治31年6月に6回に渡って『読売新聞』に掲載した、肥前の歴史(神功皇后の新羅出征など)と父の出生地(現白石町)にまつわる肥前風景論であり、この肥前の風景が蒲原有明の内面を形成したことを考察した。
17. <u>長沢雅春</u> 「滞韓日誌(5)」	共著	2008年3月	『YPSILON』(春季増刊号)(p33-p41)	1990年代後半韓国の道路・交通事情、大学内の学生組織による学生運動とそれを鎮圧する戦闘警察隊の大学内配備など、大学と国民生活についてを韓国の大学に務める教員の視点から考察した。
18. (研究動向) <u>長沢雅春</u> 「併合下の朝鮮映画史『韓国映画側面秘史』を読む—映画製作秘話の貴重な回想録—」	共著	2015年3月	『日本社会文学』(第41号)(p109-112)	朝鮮映画史をめぐる裏面史である安鍾和著『韓国映画側面秘史』(1965)が、韓国映画研究の土台を築いたこと、そこに記される映画製作についての多くの情報が、併合下の朝鮮映画史を知るうえで重要であることを報告した。
19. <u>長澤雅春</u> 「朝鮮文学への試み」	単著	2024年12月	『静岡近代文学』(第39号/静岡近代文学研究会)	朝鮮近代文学を俯瞰するためのアプローチは、朝鮮プロレタリア文学思想の分析が必須である。そのことから、日本プロレタリア文学との連動、朝鮮既成文壇との関係、さらには朝鮮総督府による検閲のありかたの究明といった課題がある。
(書評、他)				
1. (書評) <u>長沢雅春</u> 「大高知児著『神聖喜劇を読み解く』(晩聲社)を読む」	—	1994年3月	『中央大學國文』(第36号)(p104-p105)	大西巨人による長篇小説『神聖喜劇』は戦中の対馬を舞台にした、対馬要塞の重砲兵連隊陸軍二等兵東堂太郎を主人公とした作品である。この作品について研究書籍となったものは見当たらないが、大高知児氏が大西氏への聴き取りや現地フィールドワークして実証した本作について書評した。
2. (書評) <u>長沢雅春</u> 「『日本浪漫派とナショナリズム』」(ケイン・マイケル・トーマス著・小林宜子訳/柏書房)	—	1999年12月	『国文学解釈と鑑賞』(第64巻12号/至文堂)(p180)	これまで日本浪漫派の言説や文学運動の形態については日本国内研究によってなされてきたが、はじめて西洋の視点から近年のナショナリズム研究の成果によって日本のナショナリズムを描いた本書について書評した。
3. (書評) <u>長沢雅春</u> 「柴田勝二著『三島由紀夫 魅せられる精神』おうふう刊」	—	2003年2月	『国文学解釈と鑑賞』(68巻2号/至文堂)(p147)	数多ある三島由紀夫研究なかで、筆者の考える「反転性」をもって三島美学に迫ろうとした柴田勝二著『三島由紀夫 魅せられる精神』について書評した。
4. (書評) <u>長沢雅春</u> 「高橋政光『松尾芭蕉 上中下』(角川学芸出版)を読む」	—	2009年7月	『YPSILON』(第21号)(p54-p62)	本誌に長期連載していた高橋政光氏の『松尾芭蕉伝 夢幻空花』が連載を終えて『松尾芭蕉』(全3巻)となって一挙刊行された。本書において著者が描く松尾芭蕉の解釈及び特色について書評した。
5. (全集推薦文) <u>長沢雅春</u> 「推薦の言葉」(『文教の朝鮮復刻版』全86巻・別巻1巻(90万円))	—	2012年3月	ホーク情報サービス株式会社	併合下の朝鮮で刊行され続けてきた『文教の朝鮮』(1925. 9-1945. 1, 朝鮮教育会)全冊が87巻本として復刻刊行されることとなり、その案内パンフレットに掲載した「推薦文」である。長澤は韓国国立中央図書館においてマイクロフィルムから複写作業をしていた。
6. (書評論文) <u>長沢雅春</u> 「長澤重代第一歌集『山村烈日』の抒情的世界」	—	2015年2月	『YPSILON』(第31号)(p12-18)	当該歌人による歌集の抒情的内面について、作品解説に批評を加えた。
7. (書評論文) <u>長沢雅春</u> 「歌集長澤重代『山村烈日』のリアリズム精神と私の記憶」	—	2016年1月	『YPSILON』(第32号)(p30-p41)	当該歌人による歌集の社会派的リアリズムと浪漫的精神の拮抗がもたらす作品の魅力について、作品解説とともに批評を加えた。
(新聞掲載)				

1. <u>長沢雅春</u> 「韓国の街角で－辰野金吾が残したもの」	—	2002年9月2日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	『佐賀新聞』において、6-7週間毎の月曜日朝刊2面に掲載された。今回は肥前出身で日本建築界の父と呼ばれる辰野金吾の京城での建築をめぐって、日韓の歴史を考察した。
2. <u>長沢雅春</u> 「民族の誇りと喜び－韓国人が一つになった」	—	2002年10月21日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	日韓共催W杯を迎えてとくに韓国では若者たちが民族意識を強くたぎらせた。日本では希薄となった民族意識と、2000年代に入ってさらに際立つ韓国の民族意識について考察した。
3. <u>長沢雅春</u> 「日本語教育と国語教育－戦争が「運命」を分けた」	—	2002年12月16日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	植民地朝鮮における国語教育が、戦後は文部科学省の国語教育と文化庁の日本語教育とに分派した。これについて、日本のアジア植民地政策の視点から考察した。
4. <u>長沢雅春</u> 「N世代－社会的主導権を奪う」	—	2003年1月27日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	大統領選挙において、韓国の若者たちは日本の若者たちのように冷めた様子は見られない。それでも彼らは大人たちからN世代と呼ばれて大人社会に与しない異端として考えられている。そうした韓国の現在について報告した。
5. <u>長沢雅春</u> 「韓国映画の源流－英米タバコの巻き返し戦略」	—	2003年3月24日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	朝鮮映画の草創期において、活動写真がどのようにして迎えられたのか、そこには上海を拠点とする欧米の巻煙草販売戦略と、京城に建設された発電会社との協力があったことを考察した。
6. <u>長沢雅春</u> 「アカシヤのある近代－姿みえない緑化思想」	—	2003年5月12日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	朝鮮戦争によって国土が荒廃した解放後の韓国では、アカシヤの大量植樹がなされた。だが、併合下において朝鮮総督府はすでに都市建設のためにアカシヤを大量に植樹していた。パイオニア・ツリーとも呼称されるアカシヤのルーツについて考察した。
7. <u>長沢雅春</u> 「極東を愛した若き教師－伝統音楽と西洋音楽を融合」	—	2003年6月30日	「ろんだん佐賀」 『佐賀新聞』 (朝刊2面/1800字)	独人のフランツケッヘルは日本に君が代の軍隊式旋律とをもたらし、その後朝鮮に渡って朝鮮の妻を娶って朝鮮で亡くなった。そのケッヘルは朝鮮に西洋式楽曲をもたらした音楽教師だった。ケッヘルのもたらした西洋楽曲から日韓でたびたび浮上する演歌の源流について考察した。